継続こそ力 部会活動⑤

中部人事部会

取引所・会員が全面協力 『次代の波に乗ろう』が合言葉

五月以降、業界でも来年度採用大学新卒の採用内定を出し始める。その一方、今年度採用者の研修もたけなわだ。昭和五十五年（一九八〇年）発足した商品取引員人事部会　中部地区部会のメンバーは、資金的に厳しい中、他地区にない特色ある活動を続け、人材確保に知恵を絞っている。

中村代表幹事

七大学参加でスタート

大学新卒採用に危機感が強まって、東京で関東地区商品取引員人事部会が発足したのが昭和五十二年（一九七七年）。その三年後に、近藤正弘氏（現在、三晃商事取締役、初代の人事部会代表幹事）、太田清和氏（同、アイメックス取締役）、神原克己氏（同、日本ユニコム取締役）の呼び掛けで、二十三社が集まり中部地区部会が発足した。顧問に名古屋穀物商品取引所、名古屋繊維取引所、豊橋乾繭取引所の各取引員協会長だった安田稔・米常商事社長、岡地中道・岡地社長、金子義人・丸東社長の三氏を迎え、全面的な支援を得ることができた。

昭和五十五年六月には、第一回の商取業界研究懇談会（大学の就職担当者との懇談会＝大学懇）を開き、東海四県（愛知、岐阜、三重、静岡）の七大学八名が参加した。現在は二十―三十校が参加しているので、その三分の一、四分の一だったわけである。昭和六十年（一九八五年）からは北陸四県（石川、富山、福井、新潟）の大学を対象に金沢市で研究懇談会も開いている。関東にも関西にも入らない地域に足場を築こうと出ていったものだ。

昭和五十六年から平成十年まで十八年間も中部人事部会の代表幹事を務めた加藤憲一・米常商事取締役総務部長は、

米常商事 加藤取締役

「懇談会に十校も集まった時には幹事が集まってお祝いをしたものです」、「三取引所の幹部が人事部会のイベントに出席するようになってから、大学側担当者の参加が公務出張扱いになり、多くの大学が出席するようになった」と当時を振り返る。

昭和五十七年から毎年一～二月に、三重県賢島で一泊二日の研修会を開く。泊り込みで、胸襟をひらいて本音を話し合おうという狙いで、大学側二十校前後、取引員二十社ほどが参加する。

NEXT WAVEに注力

商品先物取引の啓蒙のためのセミナー・講演と求人活動を一体化した催しも行っている。その名称はネクスト・ウェーブ（NEXT WAVE）。「次の時代の波に乗ろう」という大学生への呼び掛けである。昨年はリクルートが名古屋ドームで開いた就職合同説明会に相乗りして、業界と各社のブースを設けた。今年は一月三十一日、二月一日の二日間、メルパルク名古屋で就職応援講演を二回、個別企業面談コーナー（取引員十六社参加）をセットして開催した。

NEXT WAVEの講演

このイベントについて、「金融業界」という打ち出し方も考えられたが、はっきりと業界名、会社名を明示した。平成十一年からの代表幹事、中村晃・光陽ファイナンシャルトレード人事担当副本部長は、「部会内には業界の啓蒙というとらえ方と、採用活動優先という考え方がある。どれが最も効果があるか、いろいろ試している。経費削減傾向が強い中で費用対効果を重視しなければ」と考えつつ、「人事部会は全国一本化すべきだろう。そうしないと大きなことができない」との意見も持つ。ただ、「二十数年やってきて、地域の独自色も必要だし――」と悩みはつきない。

工夫して長続きを

発足当初から部会にかかわった副代表幹事の丸山博行・岡地総務人事部次長は、

丸山副代表幹事

「商品先物業界は依然、理解してもらえない。経費面や企業格差により部会活動は必要性がなくなったとの声もある。だが業界認知のためには、まだ業界が一丸となって継続していく必要があると思う」と強調する。

もう一人の副代表幹事、津賀耕司・日本ユニコム名古屋支店人事部副部長は、

津賀副代表幹事

「企画も会員も増やしたいが、企業間の格差も大きくなって来ている。インターネット活用など採用方法も多様になってきている。従来の部会活動のままでなく、体質を変えていかなければ――」と、前途を模索している。

大学就職担当者への無差別な先物取引勧誘や「先物取引被害一一〇番」などが採用活動に影響を及ぼす中、地道な努力が続く。

女子ハンマー投げで日本新
グローバリー・綾真澄さん

グローバリーの綾真澄さん（22）が五月十二日、岐阜・長良川競技場で行われた第46回中部実業団対抗競技大会、女子ハンマー投げで自己の持つ日本記録を一気に一メートル八〇センチ更新する六六メートル二三センチの日本新記録を出した。この記録はアジア記録にあと七四センチに迫るもの。綾さんは今春中京大を卒業、グローバリーに入社、広報部所属。

◇新社長◇

フジトミは奥田氏

フジトミは奥田啓二専務取締役の代表取締役社長就任を内定した。石崎實代表取締役社長は代表取締役会長に就任する。六月二十七日開催予定の第五十回定時株主総会後の取締役会で正式決定する。若返りを図るのがねらい。石崎氏はこれからは会長として大所高所から社業をみる。

奥田　啓二氏（おくだけいじ）

昭和二十三年五月二十七日生。東京都出身、五十四歳。昭和四十七年亜細亜大学経済学部中退。昭和五十四年七月小林洋行入社。昭和六十一年十一月フジトミ取締役就任。平成十三年四月から専務取締役。

北辰商品は伊藤氏

北辰商品は四月二十五日の臨時取締役会で伊藤博幸代表取締役副社長の代表取締役社長昇格を内定した。六月の定時株主総会後の取締役会で正式決定する。経営の若返りを図るのがねらい。長畠敏彦社長は取締役相談役に就任する。

伊藤　博幸（いとうひろゆき）

昭和二十四年十一月二十二日生。福岡県出身、五十二歳。昭和四十八年三月日本大学法学部卒。平成十一年二月北辰商品入社。同年十月常務取締役、十二年専務取締役、十三年四月代表取締役副社長。

丸梅は乙守氏

丸梅は五月二十六日付けでフジトミ取締役人事部長の乙守哲郎氏を代表取締役社長に迎え入れた。新保健一郎社長は代表取締役会長に就任した。丸梅はフジトミが株式の四八・八五％を保有しており、若返りを図ったもの。

乙守　哲郎（おともりてつろう）

昭和十九年一月生、五十八歳。宮崎県出身。昭和三十七年宮崎県立都城都島高校卒。平成元年一月フジトミ入社。同四年五月取締役就任。

◇訃　報◇

高橋　卓爾（たかはしたくじ氏＝西友商事会長）病気静養中のところ五月十一日死去。七十歳。通夜は五月十四日午後六時。告別式は同十五日午前十時から、いずれも桐ヶ谷斎場で行われた。

また、五月三十日午後二時、東京プリンスホテル二階鳳凰の間で西友商事とセンチュリーの合同で「高橋卓爾お別れの会」を執り行った。